コラム

⑥⑦

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

兵士の麻雀牌

筆者が勤務する大学には，「アミューズメント産業研究所」があります。アカデミックな立場でアミューズメント産業を考える研究所。世に役立つためには楽しい生き方が大切だ，と考える大学ならではの研究所です。研究員は８人。常時，種々のトランプ，昔のスゴロク，花札，碁盤，将棋盤，麻雀牌，富くじ等々の収集品が展示がされており，さまざまな遊び道具を見ることができます。

先日，NHKの「美の壺」の取材がありました。せっかくの機会なので，野次馬気分で見に行きました。取材の対象は泰将棋。縦横25マスの盤に93種354枚の駒を用いる将棋。試しにプロ棋士が対局したら，勝負がつくまで３日間かかったというものです。駒も93種ですから，その動きを理解するだけでも一苦労。対局にあたって，駒の動きを冊子にまとめ，プロ棋士がそれを見ながら対局したそうです。「だれが」「何処で」こんな将棋をやったのか，ちょっと不思議です。

せっかくなので，他の展示品も見てみました。飲み座の遊びのハシケン。３本の箸をもった２人が向かい合って座り，手のなかに箸を何本か隠して，同時に身体の前に出します。そのとき，２人がもっている箸の合計本数を当てるゲーム。より近い本数を当てた人が勝ち。負けると一杯飲む，というゲームです（南九州や奄美ではナンコといわれ，ナンコ玉という棒を用います）。

▲インパール作戦で捕虜となった兵士の枕木牌

展示品のなかに，「インパール兵士の麻雀牌」と，「巣鴨プリズン牌」がありました。どちらも木片で作られたものです。

インパール作戦は，ご承知のとおり，第二次大戦中，補給がない状態でイギリス軍の拠点をめざして日本軍が進軍し，何万人もの兵士が亡くなった戦いです。史上，最も無謀な戦いといわれます。この戦いで，イギリス軍の捕虜となった方が，麻雀牌の作成者。木工作業の余り材で牌を作り，捕虜同士で遊んだのでしょう。引き上げ時に持ち帰って来られたものを，寄贈されたとのこと。巣鴨プリズン牌は，戦犯として収容された政治家や高位の軍人たちが作ったもの。どちらも丁寧に作られています。

どんな状況でも，遊ぼうとする意欲があること。フランクルの「意味への意思」の一種とも思えます。

（MBO実践支援センター代表　大阪商業大学特任教授）